

事 務 連 絡

令和4年11月1日

支部長 各位

一般社団法人奈良県軟式野球連盟

理 事 長 堀本 光展

審判部長 駒田 勝治

第2回審判長会議議事録送付について（ご案内）

平素は、一般社団法人奈良県軟式野球連盟の活動にご尽力いただき有難うございます。

さて、先日開催致しました第2回審判長会議の議事録を送付いたします。

支部長におかれましては、お手数をお掛け致しますが、内容をご確認くださいと共に、別紙審判長分の議事録を貴支部審判長にお渡しいただきますよう、また各審判員にご周知くださいますようお願い致します。

尚、議事録 第2号議案における12秒、20秒ルール適用については、『競技者必携 2022』13ページ、60ページ8項に記載されておりますので、ご確認ください。

以上、何卒よろしく願いいたします。

2022年10月9日

2022年度 第2回審判長会議 議事録

1、日時：2022年10月9日（日）13時～16時

2、場所：川西文化会館

3、参加者：県連役員：

駒田、岡本、西川、福井、丸橋、梶岡（文責）

各支部審判長：

奈良支部：妙中、郡山支部：桑原、天理支部：國保、生駒市支部：

中谷、生駒郡支部：梅田、香芝支部：黒松、北葛支部：寺井、高田支部：福井、葛

城支部：琉、磯城支部：長澤、桜井支部：浦山、橿原支部：梶岡、宇陀支部：増井、

五條支部：手島、吉野支部：松谷、高市支部：小野木、御所支部：欠席

※敬称略

4、議題

第1号議案：令和5年度審判部役員改選について

- ・今年度役員についての評価および来年度の役員候補者の提案など、各審判長に対して、アンケートを行う。尚、このアンケート結果は、役員選考の参考情報として取り扱う。

第2号議案：規則・取り決め事項

- ・12秒、20秒ルールの適用について
 - ▶各全国大会において、佐藤薬品工業が適用を受けたという実績がある。
 - ▶各支部においては、まずは、ストップウォッチを購入するところから始める。
 - ▶令和5年度奈良県審判技術講習会において、規則適用上の解釈や県大会で実施するか否かの説明を行うこととする。
- ・対面する塁へ、手と足が同時に動く牽制球について
 - ▶近畿ブロック講習会においては、走者3塁時、この牽制動作はボークとしないよう指導があったが、規則適用上、解釈が難しい判断となることから、奈良県においては、これまで通り、ボークとする。
- ・SGマークについて
 - ▶2022年度は猶予期間となっているが、2023年からは完全施行となることから、各チームに周知徹底されたい。
- ・各取り決め事項について
 - ▶県連として、文書化したものを通知するので、各支部で参考とされたい。

第3号議案：今年度を振り返って

- ・夏の暑い時期の空調服の着用について、県大会は「非」とするが、各支部においては一任する。

- ・夏の暑い時期の審判靴の白色について、県大会は「非」とするが、各支部においては一任する。
- ・球審用の靴について、一般クラスは着用を推奨したい。
- ・審判長会議の開催時期について、例年は、今頃に実施しているが、ダイドーなどと重なることなども踏まえると、シーズン終了後が良いのではないかと思われる。また、第1回目も6月ではなく、もっと時期を繰り上げてはどうかという意見があることから、開催時期を検討する。

第4号議案：次年度検討課題

- ・近畿ブロック審判技術講習会の受講者について、現受講者および受講予定者に加え、適任者がいれば推薦されたい。

第5号議案：審判派遣・連絡について

- ・ブロック長が取りまとめ審判長へ連絡することを基本とすることについて、各ブロックは周知徹底すること。また、欠席者の補充は、先ずは、ブロック内で調整し、その結果を審判長へ連絡すること。

【Aブロック長】：変更なし

【Bブロック長】：変更予定

【Cブロック長】：未定

【Dブロック長】：変更なし

第6号議案：その他

- ・2026年天皇賜杯に向けて、各支部審判員の指導育成および増員について
 - 奈良支部：登録28名。実動部隊としては10名程度（2級以上）と考えられる。
 - 生駒市部：登録4名。BFJ登録制度移行時に登録審判員数が減少した。
 - 郡山支部：登録12名。東口、村上などを中心に指導育成する。
 - 天理支部：登録27名。岩見、岡崎などを中心に指導育成する。
 - 橿原支部：登録22名。近畿ブロック講習会受講を機にレベルアップを図るとともにさらに増員を検討している。
 - 桜井支部：登録9名。実動部隊としては5名程度と考えられる。
 - 磯城支部：登録12名。高齢化傾向にあることから実動部隊としては3名程度と考えられる。
 - 宇陀支部：登録11名。実動部隊としては4名程度と考えられる。
 - 高田支部：登録13名。実動部隊としては6名程度と考えられる。
 - 香芝支部：登録32名。高齢化傾向にあることから実動部隊としては見込めない。このままでは存続が困難と考えられることから、将来展望について、支部内でコミュニケーションが必要である。
 - 生駒郡支部：登録10名。学童中心のメンバーがほとんどであることから、実動部隊としては見込めない。
 - 北葛支部：登録11名。実動部隊としては4名程度と考えられる。山本、中島などを中心に指導育成する。増員も検討する。

葛城支部：登録4名。全員1級審判員であるが増員は必須と考えていることから検討する。

五條支部：登録5名。実動部隊としては見込めない。

御所支部：登録4名。深沢らの登録の話が進展しておらず堂々巡りであり、審判服がないから登録できないという話は問題外である。人知審判長に確認する。ダイドーに協力している以上、御所支部も協力してもらいたい。

吉野支部：登録9名。実動部隊としては見込めない。一般チームがないことから、学童の父兄からの審判登録に期待している。

- ・天皇賜杯に向けては、審判員数とグラウンド運営者数の両面から、中学校とのタイアップは必須と考えられることから、今後、軟野連の審判講習会への招致など積極的に働きかけを行う。
- ・11月3日ダイドードリンコ杯の派遣審判員については、岡本、福井、表、安井、妙中、増井、中谷、人知で対応する。

以上

投手の 12 秒及び 20 秒ルールの取り扱い基準

技術委員会

2020 年から採用した投手に関する「12 秒及び 20 秒ルール」の取り扱いに関する基準を以下に示す。

1. 12 秒及び 20 秒ルール

投手は、捕手、その他の内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には 12 秒以内に、走者がいる場合には 20 秒以内に投球しなければならない。

違反した場合、球審は走者が塁にいない場合にはただちにボールを宣告し、走者がいる場合は警告を発することとし、同一の投手が 2 度繰り返したら、3 度目からはその都度ボールを宣告する。

なお、塁に牽制球を送球したときは、20 秒の計時をリセットする。

2. 計時

計時は二塁塁審がストップウォッチを持って行う。(3 人制は三塁塁審)

3. 12 秒ルールの適用

① 走者がいない場合に適用する。

② 12 秒の計時は、投手がボールを所持し、打者がバッタースボックスに入っ
て投手に面したときに始まり、ボールが投手の手から離れたときに終わる。

※投手が投手板についているかどうかに関係なく、打者の準備が整ったときに計時を始める。

③ 12 秒を経過したとき (13 秒になったとき)、二塁塁審 (三塁塁審) はタイムを宣告し、球審に 12 秒が経過したことを知らせる。

※二塁塁審 (三塁塁審) のタイムの宣告と同時にボールデッドとなる。

※タイムの宣告にもかかわらず投手が投球した以後のプレイは無効とする。

④ 二塁塁審 (三塁塁審) の知らせを受けた球審は、ボールを宣告する。 その際、球審は投手及び守備側の監督に 12 秒ルールを適用したことを告げる。

4. 20秒ルールの適用

- ① 走者がいる場合に適用する。
- ② 20秒の計時は、次のときに始まり、いずれの場合も投手の手から離れたときに終わる。
 - A) イニングが始まる時やボールデッドになったときは、球審がプレイを宣告したとき。
 - B) ボールインプレイの状態、新しい打者が打撃を開始するときや、打者がバッタースボックスの外に出ざるを得なくなったときなどは、投手がボールを所持し、打者がバッタースボックスに入って投手に面したとき。
※投手が投手板についているかどうかに関係なく、打者の準備が整ったときに計時を始める。
 - C) ボールインプレイの状態、打者がバッタースボックス内で打撃を継続しているときは、投手が捕手や他の野手からボールを受け取ったとき。
※投手がボールを受けてから18秒たっても投球動作を開始していない場合は、ボールが投手の手を離れるまでに20秒を超える。
- ③ 1度目及び2度目の20秒を経過した場合の投球はそのまま続けさせる。その投球に伴うプレイが止まったところで二塁塁審（三塁塁審）は「タイム」を宣告し、球審へ20秒を経過したことを伝達する。球審は、投手及び守備側の監督に20秒を経過した投球であることの警告を発するとともに、その回数を知らせる。
※タイムの宣告以前のプレイは有効とする。
- ④ 3度目に20秒を経過し21秒になったとき、二塁塁審（三塁塁審）と球審は、走者がいないときと同様の処置をする。
- ⑤ 投手が塁に牽制球を送球したときは、20秒の計時をリセットする。
※投手板をはずしただけのときや偽投のときは、計時を継続する。
※送りバントのケースなど、捕手が内野手にサインを出している間も、計時は継続する。

以上